

## ◆支援先報告会開催「平和村ユナイテッド」～紛争のない平和な社会をつくる、守る～

パキスタン・アフガニスタンでの、地域住民による平和アクションを支える活動をする一般社団法人平和村ユナイテッド。代表理事、小野山亮さんをお呼びし、現地の状況と平和を希求する人々の様々な活動の報告をしていただきました。

紛争や暴力の絶えない厳しい治安状況の中、青年を中心とした平和・非暴力のための自主的な取り組み、女性たち自身の学びあい、戦争遺児たちへのケア…たくさんの平和へのアクションが、写真や映像とともに熱く語られました。今後も現地への支援と連帯を継続していきたいと思えます。

今回は感染予防に努めながら、会員、関係者のみへの呼びかけで開催しました。直接お話を聞いたことで、有意義な意見交換の場となり、参加者たちの心に響く報告会になりました。対面での開催の良さも実感しました。(黒木)



アースからピースカードアクション!

## ◆リサイクル着物コーナー常設開始しました (星川店)

毎年恒例、ご好評いただいている「リサイクル着物フェア」“密”をまねくようなイベントを避けるため、しばらくは開催できない状況です。星川店では、昨年の6月から「着物・帯・和装小物」などの着物コーナーを常設することにいたしました。常設展示を始めて半年余り、改めて「着物を愛している人がいる」「着物リメイクをする人も増えている」と感じています。



季節に応じて着物は常時 30 着以上、帯や反物、帯揚げ、帯締め、履き物なども展示しています。和装小物全てを展示する余裕がありませんが、整理収納し、お声がけいただければ提供できる体制にしています。

また、着物アドバイザーが対応できる日も設けました。第2木曜日 10:30~13:00 ※都合によりお休みの場合もありますので、事前にお電話でご確認くださいと安心です。

ご興味のある方はお気軽にお立ち寄りください。(山東)

## ◆星川店看板のリメイクコーナーは設置丸17年!

浴衣や着物から生まれ変わった布ぞうりを始め、創意工夫された手作り小物やエプロン、チュニック、パンツ、帽子などのリメイク作品が常時並んでいます。

2020年のコロナ禍では初めて2ヶ月間の休業を余儀なくされましたが、そのダメージをはね除ける様に、休業明けにはマスクを始めワイドパンツやチュニック、ワンピースなどの作品が沢山並びました。

夏期には流行のワイドパンツが好評で、出す度に売れて嬉しい悲鳴。秋から冬場はウールのエプロンが好評です。

手作りマスクは6月の発売以来、毎月100枚以上売り上げる今や星川店の目玉商品となっています。柄や材質も豊富に揃い、お客様もあれこれ迷いながら楽しそうに選んでいます。

但し、リメイク作品の作り手は恒常的に不足しており、作品作りの仲間を常時、募集中です。(原)



3軒の農家さんが交代で運んでくれます。収穫事情により、多い日少ない日がありますが、少しずつ定着してきて、生産者のわかる地元の野菜は安心かつ新鮮と評判。「新鮮でおいしかったよ」「今度はいつですか?」と待っている人も増えてきて、嬉しいです。(沼本/河野)



## ◆朝市街道の野菜の販売

保土ヶ谷の農家さんが作った、季節のとれたて野菜を両ショップで毎週火曜日に販売しています。天王町店は、近くに松原商店街やイオンがあり、また店頭は日差しが強いことも心配でしたが、地域内循環の拠点として、地域とつながるのを目的に昨年10月から参加しています。

※「朝市街道」とは、旧東海道沿いを中心にさまざまなお店の軒先を借りて、地元農家さんの新鮮野菜販売を通し、地域活性を目的に実施している活動です。(主催:ほ도가や 人・まち・文化振興会)

WEショップでは環境保護と資源の有効利用のため、レジ袋やビニール袋での包装を控えています。マイバッグを持参にご協力お願いいたします。



特定非営利活動法人 WE21ジャパン・ほ도가や は、認定 NPO 法人です

WE ショップ星川店 Tel/Fax:045-334-5140 10:30~17:00 休業日: 土曜・日曜・祝日

WE ショップ天王町店 Tel/Fax:045-333-6336 10:30~17:00 休業日: 水曜・日曜・祝日

※感染拡大状況により営業時間は変更となる場合がありますのでショップにお問い合わせください



## ほ도가やニュース 66号

発行:認定NPO法人 WE21ジャパン・ほ도가や  
〒240-0001 保土ヶ谷区川辺町2番地2 A103  
Tel/Fax045-334-5140 http://we21hodogaya.org/  
発行責任者 黒木宏子

ありがとう、20年  
記念特大号

## 「WE ショップほ도가や」は 2000 年 3 月 18 日に西谷でオープンしました

大量生産・大量消費・大量廃棄のグローバリズムが進む一方で、戦禍や食糧不足のために飢えに苦しむ人々があります。この不公平な世界の状況に、「身近にできる事からはじめよう」を合い言葉に、“もったいない”の志をもつ保土ヶ谷区の女性たちが立ち上がり、“国際援助活動及び資源のリユース”を目的としたリサイクルショップ「WE ショップほ도가や」を開設しました。

2002年に現在の星川店へ移転、2003年に2店舗目の天王町店を開設。この間、多くのお客様、ボランティア、地域の様々な団体や行政とのネットワークに支えられ、地域に密着したチャリティショップとして活動を進めてきました。

20年間のショップ事業高は2億2700万円、国際支援金総額1476万円(16ヶ国)、お客様数31万人、寄付数5万8千件、ボランティア延べ人数2万2千人。WE ショップに集う個人個人が時間・労力・知恵・お金を互いに出し合って活動を積み上げてきた、まさに、Women's Empowerment(女性が力をつけていく)の成果だと思えます。

この20年で私たちを取り巻く環境は大きく変わりました。2011年には東日本大震災、福島原発事故という未曾有の災害が起こり、その後も気候変動による自然災害が多発し、貧困や格差も広がっています。そして、2020年の新型コロナウイルスのパンデミックは世界を一変しました。

4月の緊急事態宣言発令に伴い2ヶ月間の休業をとりました。しかし休業明けには多くのお客様やボランティアさんが再開を待っていてくださっていたことを知り、地域の皆さま、そして運営する私たちにとっても大切な居場所になっていることを改めて感じました。

20年間の歩みを支えてくださった全ての方々へ感謝すると共に、これからも世界とのつながりの中で自分たちの暮らしのあり方を見つめつつ、「誰ひとり取り残さない」平和で公正な循環型社会をめざして、WE ショップでできることを皆さまでともに進めていきたいと思えます。出口の見えない長いトンネルの先には、少しでも優しい世界が広がることを願って。

(代表理事 黒木宏子)



## コロナ禍、支援先では? 20年間で築いた信頼関係を胸に、これからも

## ピンチをチャンスに!

フィリピンでは3月に全土がロックダウン(州境、町境を越えた通行禁止)され、ベンゲット州の人々が生計を立てている野菜卸売も突然止まりました。その後農家の移動許可証が発行されましたが、イベント中止や店舗休業などで卸市場でも売れません。そんな中、農家と消費者をSNSを通じて橋渡しする動きが始まり人気を集めています。新型コロナというピンチが、卸売業者にコントロールされていた流通網に風穴を開けました。

有機農業で豊かなコミュニティ作りを目指すカンボジアでは、感染者は少ないものの大規模な集まりはできないため、個別に農家を訪問して農業技術を伝えています。だからこそ、ビデオ製作に焦点をあて、農家の実践例を半年で38本作成し動画配信したところ、アクセス数が10万件を越すものもいくつかあり、有機農業への関心を広げています。



パキスタンは3月のロックダウン後、必要最小限の場所のみを閉鎖する方法がとられ、活動時間や間隔、マスク、手洗いなどに気をつけながら、若者たちは熱心に平和の取り組みを進めています。ゲームやスポーツ、対話などを通じて、民族や宗教の多様性を認め合いながら平和な社会をつくらうとしています。(※報告会の記事参照)

## 20年間で生み出した、たくさんの信頼関係

この20年間を振り返ると、私たちは支援を通じて、世界で起こっているさまざまな課題を学ぶことができました。また、毎年のようにスタディツアーや日本への招聘を行い、現地の人々と交流しながら、たくさんの信頼関係を築いてきました。風土や風習、言葉や宗教が違って、平和を望み、互いを思いやる心は同じという思いを強くしています。

紛争や戦争は憎しみの連鎖から生まれると言われるますが、心に壁を作ってしまうと不信感は膨らんでいくばかりです。信頼する心の友が世界中のあちこちにいることは、平和な社会をつくる上でとても大事だと改めて感じています。(賛川)

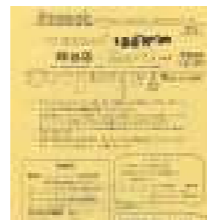
## ◆20年のあゆみ



設立呼びかけ人会発足



ほどがやニュース第1号発行



特定非営利活動法人取得  
独自支援を開始

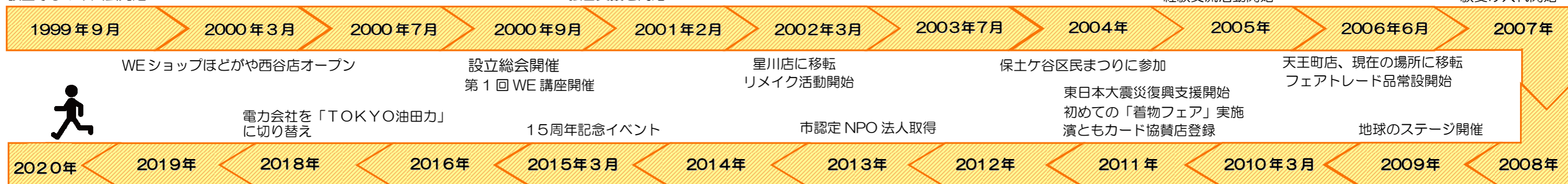


星川店にリメイク品販売コーナー設置  
天王町店オープン



経験交流活動開始

中学生の職場体験受け入れ開始



WEショップほどがや  
創立20周年



2019年11月の回収開始から、2020年11月までに、WE21グループ全体で、羽毛布団158枚、ダウンジャケット229枚を回収しました。ご協力ありがとうございます。(園田)



## ◆WEショップで世界とつながる～貧困なくそうキャンペーン～

10月16日の「世界食料デー」、10月17日の「貧困撲滅のための国際デー」。これに合わせて、WE21 ジャパンほどがやでは毎年「貧困なくそうキャンペーン」を実施しています。

国内外で、貧困をなくすための活動をするNGOスタッフを招いてのWE講座、活動紹介の写真・パネル展示、10月17日の売上全額と店頭募金の寄付、SDGs17の目標のうち関心のある項目にシールを貼ってもらうシールアンケートの実施など、様々な取り組みを行い、多くの人に「世界の貧困」について関心を持ってもらうためのキャンペーンです。

2008年から2015年までの8年間は、ACEの「児童労働を防ぐ活動」を支援。児童労働の背景にある貧困を解決する為、親の収入向上、子どもの学校教育の重要性に気付いてもらう活動をしてきました。

日本でも、「子どもの貧困」「若者の貧困」「老後破産」が深刻化し、2016年から2020年までの5年間、貧困問題に取り組むNPO「もやい」を支援してきました。

※SDGs (Sustainable development goals) とは、国連が定めた「持続可能な開発のためのグローバル目標」。環境や経済、暮らしにおいて、2016年から2030年までの15年間に世界中で達成すべき17項目です。“このままだと地球がもたない”との危機感から産み出されました。

## ◆フェアトレード・フェア (天王町店：2020年12月7日～12日)

雑貨、各種コーヒー、チョコレート、ジャムなど、当地域では他に販売している店はない品が揃うこのフェア。リピーターのお客様も多い中、身近にこんなに揃っているお店があることを初めて知ったと、パイナップルやマンゴーのはちみつなどを

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、日本国内でも仕事も失い、今日明日の食べ物にも困る人たちが増え続けています。今年度は、こうした現状を幅広く支援するため、支援先を3団体に増やし、それぞれに募金箱を設置しました。

- 認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい(生活困窮者支援)
- 認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ(ひとり親支援)
- NPO法人移住者と連帯する全国ネットワーク(外国籍市民支援)



「世界食料デー」食品ロス削減と飢餓ゼロに取り組む日  
「貧困撲滅のための国際デー」世界の貧困撲滅を考える日

ますます、世界中で急速に格差が広がっていく中、貧困を無くすため、自分が出来る事は何かを考えるきっかけを作っていきたい。これからもみんなが協力して安心して暮らせるまちづくりを目指して、「誰一人置き去りにしない」というSDGsの理念をWEショップから発信していきます。(伊達)

買ってくださる若い方があり、喜びでした。

フェアトレードの意味を知り、身近な店で購入する。それが海外支援の一助となります。みなさまのご来店を心よりお待ちしております。毎年5月と12月に開催しています。(成瀬)

## ◆ショップで廃食油の回収をしていることをご存知ですか？

WEショップでは、以前から廃食油の回収をしてきましたが、2019年にショップで使用している電力会社を「TOKYO油電カ」に切り替えました。「TOKYO油電カ」は、家庭や事業所で使われた天ぷら油等を回収し、二酸化炭素を増やさないバイオディーゼル燃料などへの再資源化を通じて私たちの生活環境の改善に貢献しているリサイクルプロジェクトです。

さらに今年度、使い終わった油を原料にした環境にも皮膚にもやさしい薬用ハンドソープの店頭販売も始めましたので、手洗いの多いこの時期是非お試しください。

これからも、私たちにも無理なく取り組める循環型の地域社会作りにつながる様々の活動に、地域の皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思っております。(近藤)



## ● わたしとWEショップ ●

星川店オープン時に、即興で行きました。看板のWEショップが気に入りました。英語に強い(?)私は、WEはIの複数だから一人より二人の力、に一人合点。それがWomen's Empowerment(女性能力向上)の頭文字だと初めて知りました。支援先のフィリピン(イヤマン)から頻りに来日する女性達の通訳、翻訳、ホームステイの受け入れをしました。自宅での夕食後に布草履作りのデモンストレーションもしました。ある晩秋、湘南地区で布草履講習会を開催した時、受講者の中にアメリカからの女性がいました。目的を問うと帰国後、作った布草履をクリスマスツリーに飾りたいとのこと。私は日頃「踏まれる運命の布草履」とぼやいていましたが、「Oh!イエス様ありがとうございます」と嬉しかったです。又、インドから広報担当の女性の訪問があり、ビデオインタビューを受けました。WEショップに於ける私の活動内容、意見を述べました。WEよりIを主張しちゃったのです。(保坂)

私とWEショップとの関わりも20年になります。西谷のショップボランティアから始まり、スタディツアー、ホームステイ、ショップスタッフ、広報、リメイクチーム等に関わってきました。スタディツアーの参加は、支援が身近に感じ、今でも現地の皆様の顔が次々にうかんでいきます。ホームステイでは支援先の方々が我が家に滞在して下さり、交流がより深まりました。母の手作り品のプレゼントも喜んで下さり嬉しかったです。その後母もWEショップに関わるようになり、皆さんに知られるところとなり母娘(おやこ)で共通の話題も増え親孝行らしきものが出来たことも大きな喜びでした。このように色々貴重な経験をさせて頂き思い出深い20年となりました。

今、SDGsがやっと世に多く知られるところとなりました。当初からそれを目標にしてきたのがWEショップだと思えます。そのようなWEショップとこれからも長く係わって行けたなら幸いです。(鈴木)

広報チーム「ほどがやニュース」を初めて手になされたお客様にも、わかりやすく、楽しく読んで頂けるように願いながらニュースを作っています。WE21ジャパンの活動を知って頂けますように。ショップのイベントなどをご理解・応援して下さいますように。そしてまたショップに足を運んで下さいますように。そんな思いで15年間、広報チームとかがわって来ました。編集会議で、チームのメンバーと会えるのも楽しみの一つです。(春日山・久野)